

未来の防災を担うのは私たち」。18日閉幕する国連防災世界会議の公開イベントで、世界各国の学生らが取り組みや提言を報告した。インターネットを使って防災情報を共有するなど国境を越えた連携を訴えた。関係者は東日本大震災を経験した日本発の「BOSAI」の浸透に期待する。(3面参照)

「死者数をゼロにする防災を目指したい」。15日、仙台市の会場で開かれた公開イベント。岩手県陸前高田市を襲った東日本大震災の津波で父(当時49)と母(同41)を失った筑波大3年の菊地将大さん(21)は、開会スピーチで述べた。

## 国連防災会議、閉幕へ 若者「BOSAI」で絆

### 「情報の共有を」訴え



公開イベントで防災政策を提言する日本とフィリピンの若者たち(15日、仙台市)

たいという。「皆さんと防災について一から考えたい」。そう呼びかける約150人の聴衆から拍手が湧き起こった。

「日本で学んだ『BOSAI』の知識を交流サイトにフィリピンを襲った台風で被災した大学生、シエッサ・ラピラップさん(20)らと日本人学生が今後のアジアの防災に必要な施策を発表。「災害を経験したアジアの学生が情報を共有し、それぞれのコミュニティーに持ち帰って浸透させれば被害軽減につながられる」と提言した。

震災から4年が経過し、台風被害に遭ったが「家の中の静けさはいまも受け入れられない」と吐露。それでも周の支えで国際交流に取

たが「家の中の静けさはいまも受け入れられない」と吐露。それでも周の支えで国際交流に取

復興に関わる仕事に就き14日に開かれた公開イ

ベントでは日本やインド、ケニアなど計11カ国の学生ら20人が被災地を視察した感想や、各国の防災の取り組みを英語で発信した。ニュージーランドの歯科医、アリシユ・ナレシュさん(29)は「日本で学んだ『BOSAI』の知識を交流サイトにフィリピンを襲った台風で被災した大学生、シエッサ・ラピラップさん(20)らと日本人学生が今後のアジアの防災に必要な施策を発表。「災害を経験したアジアの学生が情報を共有し、それぞれのコミュニティーに持ち帰って浸透させれば被害軽減につながる」と提言した。

交流がきっかけとなり、いくつか具体的な形となって実を結んでくれれば」と期待している。